

目次

はしがき	2
本書の構成と使い方	4
本書で用いる最低限の文法用語	5

序章 なぜ五文型? 013

0-1 「文型」が変わると意味も変わる (1) 014

- [1] 日本語は「てにをは」、英語は「語順・文型」がすべて 014
- [2] 同じパターンには意味に共通性 015

0-2 文型が変わると意味も変わる (2) 018

「文型」がわからないとジョークもわからない 018

0-3 他動詞と自動詞とは (1) 020

- [1] 他動詞が表す意味は「対象が必要な行為」 020
- [2] 自動詞は「自分だけで完結するもの (他者がなくてもできるもの)」... 020
- [3] 「対象」が必要かどうか 021
- [4] 間違えやすい自動詞と他動詞の対応関係 022
- [5] 同じ動詞が他動詞にも自動詞にも使われる? 023

0-4 他動詞と自動詞とは (2) 024

- [1] 同じ動詞が他動詞と自動詞になるわけは 024
- [2] 他動詞の自動詞化 (1): oneself の省略 024
- [3] 他動詞の自動詞化 (2): 自明な目的語の欠落 025

0-5 他動詞と自動詞とは (3) 026

- [1] 「自動詞+前置詞」= 「1つの他動詞」と考えられるもの 026
- [2] 「自動詞+副詞句」と考えても意味のないもの 026
- [3] 前置詞によって意味が決まる 028
- [4] 句動詞か、単なる「自動詞+副詞句」か 029

0-6 間違えやすい「自動詞」と「他動詞」 030

- [1] 他動詞だから「を」とは限らない——「に」や「について」もある 030
- [2] 自動詞と間違えやすい他動詞: discuss グループ 030
- [3] 意味によって前置詞がつくこともある動詞 031
- [4] 他動詞と間違えがちな自動詞: hope グループ 032

0-7 「句」のとらえ方 034

- [1] 形容詞句と副詞句 034
- [2] 形容詞句が補語になる場合 036

第1章 第1文型 (SV) と第2文型 (SVC) の世界 039

1-1 SV (第1文型) の基本的意味とは 040

- [1] 目的語も補語もとらない文型 040
- [2] SVだけでは成立しない場合も 040
- [3] 第1文型をとる動詞の基本的意味 041
- [4] すべてが存在・移動系とは限らない 042

1-2 第2文型 (SVC) の基本的意味とは 044

SVCの意味系統は2つ 044

1-3 第2文型 (SVC) の注意点 049

- [1] なぜ前置詞が必要なのか 049
- [2] 名詞の後ろに置けるかどうか 049

1-4 SVAタイプの第1文型 051

- [1] SVだけでは成立しない 051
- [2] 取り除けない修飾語 051
- [3] 付加詞なしの純粋なSVで使われるケースとは 053
- [4] 付加詞と補語はどう違うのか 054

1-5 be動詞は一人歩きができない 056

God is...見直しが必要な例文 056

第2章 第3文型 (SVO) の世界 059

2-1 to不定詞を目的語にとる動詞 060

- [1] to doは「これからすること」(未来志向) 060
- [2] 未来に向かって進んでいく: 願望・意図・決意系の動詞 060
- [3] 厳密には他動詞でないが「...するようになる」を表す動詞 062

2-2 動名詞を目的語にとる動詞 (1) 063

- [1] 動名詞の基本概念 = 現在・過去志向: すでにしていること 063
- [2] doingを目的語にとる動詞は「中止・回避・繰り返し系」 063

2-3 動名詞を目的語にする動詞 (2) 067

- [1] 「まだしていない」のにdoing? 067
- [2] to doとdoingは向かう方向が“正反対” 068

2-4 動名詞を目的語にする動詞 (3) 069

- [1] 頭の中では実現済み 069
- [2] mind doingで言われたら、断るには勇気が要る 070

2-5 that節を目的語にとる動詞 (1) 071

- [1] that節を目的語にとれる動詞は、思考・感情・認識・発言系 071
- [2] that節をとっていることから動詞の意味がわかることも 072

2-6 that節を目的語にとる動詞 (2).....	073
think/hope/agree/complain/insistは本来は自動詞.....	073
2-7 that節を目的語にとる動詞 (3).....	075
that節をとりながら思考・認識系とは言えないものがある？.....	075
2-8 that節を目的語にとれそうでとれない動詞.....	077
[1] speakやtalkがthat節をとれない理由とは？.....	077
[2] 行為動詞 ≠ 伝達動詞.....	077
[3] tellは「伝達相手」が必要.....	079
[4] 見かけ上は〈動詞+that...〉でも.....	080
2-9 目的語を間違えやすい動詞.....	081
[1] 「宿題を手伝う」は何と言うか.....	081
[2] 「盗む」のstealとrobの違いは？.....	082
第3章 第4文型 (SVOO) の世界.....	083
3-1 第4文型 (SV O ₁ O ₂) の正体.....	084
[1] O ₁ ≠ O ₂ という理解でよいのか？.....	084
[2] O ₁ がO ₂ を持つ.....	085
[3] haveの「所有」について.....	086
[4] こんな動詞もSVO ₁ O ₂ に?!.....	087
3-2 第4文型と第3文型の転換について.....	089
[1] 実は、He gave me a book. ≠ He gave a book to me.....	089
[2] O ₁ とO ₂ は所有関係が前提.....	090
3-3 二重目的語をとれそうでとれない動詞.....	092
[1] 日本語では問題なさそうだが.....	092
[2] なぜ二重目的語をとれないか？.....	093
[3] X、Yともに「人」を目的語にとれる動詞の場合.....	094
3-5 意外な第4文型動詞に注意.....	096
[1] 「授与動詞」という名前の盲点.....	096
[2] 「O ₁ がO ₂ を持つこと」を否定する.....	096
[3] 「O ₁ がO ₂ を失う」意味を表す動詞.....	097
3-6 第4文型もどき.....	099
[1] 前置詞withが動詞の意味を決める.....	099
[2] withを省くとSVOOと実質的に同じ.....	100
3-7 SVO+that節とSVO+of+Oの関係.....	102
[1] O ₂ が名詞節をとる動詞.....	102
[2] 〈SVO that節〉はOKでも.....	102

[3] inform/convince/remindなどはofが必要.....	103
[4] that節の前ではofが欠落.....	104

第4章 第5文型 (SVOC) の世界..... 105

4-1 OCは「O=C」がすべての誤解の元.....	106
[1] O=Cとなるのは、Cが「名詞」か「形容詞」のときだけ.....	106
[2] もう1つの文が埋め込まれていると考える.....	107
4-2 第5文型は2文の合体.....	108
[1] He made Tom open the door. のthe doorの役割は？.....	108
[2] 2文の「合体」と考える.....	108
[3] 補語が名詞や形容詞の場合も「埋め込み」と理解する.....	110
4-3 第5文型の意味系統は2つ.....	112
[1] 代表はthinkとmake.....	112
[2] 補語の2つの意味とは？.....	113
[3] SVOCであることがわかれば動詞の意味も見えてくる.....	114
4-4 OCのCはどこで決まるのか？ (1).....	116
[1] 〈SVO to do〉の基本的意味は「Oがこれからdoする」ようにVする... 116	
[2] to不定詞の意味は未来志向 = これからすること.....	117
[3] 「(これからすることを) 思い出させる」なら〈remind O to do〉.....	118
4-5 OCのCはどこで決まるのか？ (2).....	120
[1] 丸暗記していると... .. 120	
[2] Oが「...する」か「...される」か.....	121
[3] wantの場合も.....	122
4-6 OCのCはどこで決まるのか？ (3).....	123
[1] makeはもともとはtoがついていた？.....	123
[2] 使役動詞make/have/letの使い分け.....	124
[3] toは“時間差”を表す.....	126
4-7 OCのCはどこで決まるのか？ (4).....	127
[1] 〈have + 人 + 原形〉は本当か？.....	127
[2] 〈have O doing〉とは？.....	129
[3] makeの場合も「原形」とは限らない.....	130
4-8 第5文型と節との関係.....	131
[1] 埋め込み：動詞の後ろに文を埋め込む.....	131
[2] SVOCで補語をto doにできない場合.....	132
[3] 思考・認識系動詞以外ではto beは不可.....	134
4-9 第5文型と無生物主語構文.....	135

[1] 「無生物主語構文」とは？	135
[2] 無生物主語が「きっかけ」となってOCの状態に	135
[3] enableは「第5文型専科」	136
[4] 無生物 (S) + V + [O + C] を用いた文	137
[5] 五文型と因果関係：なぜ、無生物主語が好まれるのか？	138
4-10 第5文型もどき	139
[1] <前置詞+名詞...> はM (修飾語) と言えるのか？	139
[2] intoの場合も	140
[3] 「許可」と「禁止」の関係	142
4-11 第5文型の盲点	143
[1] 一見 (SVO to do) の型をとれそうだが...	143
[2] say と tellの違い	143
[3] hope は本来が自動詞	144
[4] <hope to do> はなぜOKなのか？	144
[5] 第5文型がとれそうでとれない他の主な動詞	145
第5章 五文型と受動態の関係	147
5-1 受身と文型の関係	148
[1] なぜI was stolen my bagは間違いか？	148
[2] もとの文に目的語がなければ受身にはできない	148
[3] 各文型とその受身文の構造上の特徴	149
[4] 受身文からもとの文 (能動態) へ	150
5-2 受身文の主語とは？	152
[1] 受身文では他動詞 or 前置詞の目的語が1つ欠ける	152
[2] <V + X + 前置詞 + Y> タイプの受身はひと通りのみ	154
5-3 is taken placeはなぜ間違いか	156
「れる・られる」に注意	156
5-4 第4文型 (SVO, O₂) の受身	158
[1] <名詞 is done 名詞> ときたら？ 第5文型の受身との違い	158
[2] 第4文型は2種類の受身が可能だが	159
5-5 第5文型 (SVOC) の受身	160
[1] 第5文型 (SVOC) の受身文の基本	160
[2] <be動詞+過去分詞+形容詞> ときたら	161
[3] 「第5文型の受身」なら動詞の意味が判断できる	162
06 句動詞の受動態	163
[1] 句動詞は1語と考えることで受身が可能	163

[2] 「動詞+抽象名詞+前置詞」タイプは2種類の受身が可能	163
5-7 be said to doの能動態は？	165
[1] <be動詞+過去分詞+to do> ときたら？ (1)：第5文型の受身	165
[2] <be動詞+過去分詞+to do> ときたら？ (2)：第5文型の受身でない場合	166
[3] <be動詞+過去分詞+to do> ときたら？ (3)：繰り上げによる変形...	166
5-8 なぜbe wanted to doという受身は不可か	169
[1] 同じ、<V + O + to do> なのに...	169
[2] <O to do> をOCではなく、1つのOと考える	169
[3] ネクサス目的語をとる動詞の特徴は？	170
[4] 他にもある、ネクサス目的語をとる動詞の特徴	171

第6章 これって第何文型？

6-1 取り除けない副詞要素 (1)	174
[1] 副詞要素=取り除ける、とは限らない	174
[2] SVOAというパターン	174
[3] OとAの関係は？	175
[4] <S + V + X + 前置詞 + Y> というパターンの場合も	176
6-2 取り除けない副詞要素 (2)	178
[1] 動詞とともに前置詞は暗記するしかないのか？	178
[2] 結合する前置詞の意味で動詞の意味は決まってくる	178
[3] 他の前置詞でも同じ	180
6-3 取り除けない副詞要素 (3)	182
[1] <V + X + 前置詞 + Y> のパターンは前置詞の意味に注目	182
[2] toは“XがYに到達”	182
[3] ofは“一体化したものの分離 (全体と部分)”	183
[4] forは“視点をfor以下にむけて切り替える”	184
[5] onは“接触”	185
[6] asは“A = B (同格) の関係”	186
[7] intoは“変化した結果”	187
6-4 be doing (進行形) はSVCではいけないのか？	188
[1] He is watching TV. はSVC？	188
[2] 本当に<be動詞+doing> で1つの動詞なのか？	189
[3] <S + be動詞+過去分詞> の場合も	190
[4] <be動詞+to不定詞> の場合も	191
6-5 teach O to doは第4文型か第5文型か	192
[1] <SVO to do> でもSVOO？	192

[2] tell や teach の場合は？	193
[3] 何のための文型分析か	194
6-6 第4文型と第5文型は1つに収束？	195
[1] O ₁ O ₂ も OC も「1つの目的語」という発想	195
[2] 「文の埋め込み」という考え方	196
[3] 第4文型の場合も O ₁ O ₂ を1つの目的語と考える	196
[4] 〈V+X+前置詞+Y〉の場合は〈X+前置詞+Y〉を1つの目的語と考える ...	197

第7章 五文型理論の見直し 199

7-1 準補語とは？	200
[1] 取り除いても成立する補語が	200
[2] 取り除いてもいいなら、準補語はなくてもいい存在か？	201
[3] 目的格の場合も	202
[4] 準補語の「補語」の表す意味は「状態」のみ	204
[5] 「準補語＝名詞」の場合は特に注意	205
7-2 want to は助動詞ととらえる方が合理的	206
伝統文法の説明では矛盾が生じる？	206
7-3 be 動詞＋形容詞＋前置詞	209
[1] 〈前置詞＋名詞〉の部分は欠かせない要素	209
[2] 〈be 動詞＋形容詞＋前置詞〉で「1つ他動詞」と考える	209
[3] of 以外の前置詞も	211
7-4 be 動詞＋形容詞＋that 節	213
[1] 思考・認識系形容詞の場合	213
[2] 〈be 動詞＋形容詞〉を1語の動詞のように	213
[3] 「感情系形容詞」の場合	215
7-5 be 動詞＋形容詞＋to do (1)	217
[1] be going to do = 助動詞？	217
[2] be likely to や be sure to も助動詞と考える	218
7-6 be 動詞＋形容詞＋to do (2)	219
[1] 見かけは〈be 動詞＋形容詞＋to do〉でも	219
[2] Tough 構文の特徴	220
[3] to 以下を消去すると意味が変わってしまう	220
[4] 間違えやすい点：to do の後ろで名詞が「空席」になること	221
[5] Tough 移動ができるのは「行為」を表す形容詞のみ	222
[6] Tough 構文と仮主語構文の違い	223